



2026年・5月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス 5月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <https://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★第53回通常総会

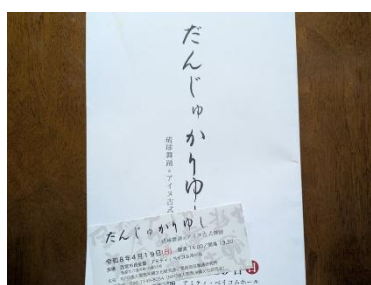
5月21日(木) 11時から、第53回三宮センター街2丁目商店街振興組合総会がセンタープラザ西館第8号会議室で行われました。組合員出席者20名で、委任状提出者48名で規定数を上回り、有効に通常総会は成立し、第1号議案「令和7年度事業報告の件」から第6号議案「役員改選の件」まで審議・承認されました。

久利理事長が挨拶の中で「これからは明朗・明晰な行動を大事にしていく。これはお客様にとっても、あるいは街創りの方針にしても同じで、真摯に真つすぐな態度で臨みます。企画も一過性のイベントではなく、ストリートミュージアム・夢未来号の様に社会に広く認知され、貢献していくことが大事であり、プライドを持って進めていきます」とご挨拶されました。ご来賓の神戸市経済観光局大畑局長も「街の歴史と文化を作り上げていくその活動は継続性が大事で、過去・現在・未来と街の活動が非常に分かりやすく、行政としてもご協力を行う上で市民の皆様にもご理解を得やすい。神戸の玄関口である三宮が元気で、輝いていることがこれからも必須であると考えています」と大変嬉しいお言葉を頂きました。三宮はビルの建て替えという大きな案件から、従来からの資産でありますアーケード維持、デジタルサイネージの活用や、検討項目となっている暴走車対策のポラード設置など、これから推し進めていかななくてはならない重要事項が山積しております。これらの問題は役員だけではなく、組合員の皆様からのご支援・ご理解が必要です。今後も何卒よろしくお願い申し上げます。



★だんじゅかりゆし 琉球舞踊×アイヌ古式舞踊 2026年

4月19日に西宮市民会館で琉球舞踊とアイヌ古式舞踊の両方を観ることの出来る「だんじゅかりゆし」が開催



され早速観覧して来ました。「だんじゅかりゆし」とは、沖縄の言葉で「とてもめでたいこと」を意味します。今回の催しは琉球とアイヌ、それぞれの風土に根ざした舞踊が一堂に会し、異なる文化の美と精神を舞



台上で観ることが出来るイベントです。それぞれの文化が大切にしてきた祈り、自然との共生、そして人々の営み。その精神が舞に託されています。実際に鑑賞させて頂き、宮廷舞踊として発展したと言われる琉球舞踊から感じるの女性優美さのような柔らかな動きで、アイヌ古式舞踊は祖先から育んできた生活の営みと自然に対する畏敬の念が豊かに表現されているような気がしました。日本の南と北の土地で育んできた舞踊を一度に鑑賞できとても興味深い催しでした。優雅で静かな沖縄舞踊は歌舞伎に似たところがあり、自然の中から発生したアイヌ古式舞踊は声が楽器となり神聖な空気が漂う祈りの舞でした。お互いの文化を大切に守り、その伝統と想いを舞に込めている、その空気感を肌で感じた時間でした。



★京都国立近代美術館 モダン都市生活と竹久夢二 川西 英コレクション

私達の街の東西入り口に大きなステンドグラスが飾られているのは皆様ご存じだと思います。東側入り口が



「背山眺望」、西側が「港俯瞰」です。この作者である版画家の川西 英先生にとって「竹久夢二」の存在は非常に大きなものでした。2024年に生誕140年と没後90年を迎えた竹久夢二。今や近代日本美術史上の巨匠としての評価はゆるぎないものとなり、各地で回顧展が開催されています。しかし大正・昭和期の少年少女や美術愛好家たち、青年芸術家たちにとっては、巨匠というよりももっと身近な、イラストレーターであり、デザイナーだったことでしょう。川西先生も夢二の絵と詩に魅了され



竹久夢二

れた一人で、自身が収集した膨大な版画コレクションの3分の1以上が夢二の版画・書籍・グッズなどで占められています。京都国立近代美術館では、「モダン都市生活と竹久夢二」と題して大正期のモダンな大衆文化時代のスターとして幅広い人々に親しまれた夢二の作品とともに、夢二に憧れた川西先生や恩地孝四郎をはじめ



ポリドールレコード
の新譜ポスター

とする昭和期の画家・版画家たちが描き出した都市生活やモダンな景観、前衛と遊びの世界を展示しており、先日、早速拝見して来ました。明治後期から大正時代に入ると、交通の便が進み、郊外に街が広がりました。別の言い方をすればモダン化していきました。結果、貧富の差が広がりましたが、夢二はその暗い部分にも目を向けたのだそうで、明らかに構図がほぼ同じ2点の作品があり、女性の表情の違いでその明暗を示していた作品は印象的でした。また夢二は江戸時代の浮世絵以来、美人画の定番であった細い釣り目顔



竹久夢二 木版画
川西英手製の「貼交帖」

ではなく、愁いを帯びた大きな瞳で新しい美人像の流行を作ったのだそうです。竹久夢二は詩人であり画家・美術家・著者、そして編集者でもありました。川西先生はその夢二に惚れ込み、夢二の作品を、例えば雑誌の表紙を切り取り、それをそのまま冊子状のような紙に張り付け「貼交帖」としても数多く収集しています。そして川西先生は夢二の作品を模写し、ご自身の作品にも深い影響を与えました。つまり川西先生は夢二学校の卒業生とも呼べる存在でした。この展覧会で数多くの作品を拝見させて頂きましたが、夢二が大正ロマンを代表する画家で「大正の浮世絵師」とも呼ばれる理由がよく理解できましたし、川西先生が惚れ込んだのも当然だと感じました。この展覧会は6月21日迄行われていますので、もう初夏とも呼べる京都で大正ロマンを肌で感じてみませんか。京都国立近代美術館：京都市左京区岡崎円勝寺町岡崎公園内 <https://www.momak.go.jp>

★編集後記

今回のゴールデンウィークで大阪に所用で足を運びましたが、改めて訪日観光客の多さを再認識しました。それと同時に、もしこの外国人観光客が全てこの群衆から消えたならば、一体何人の人々が残るのだろうかという実際には起こりにくい想像もしてしまいました。「全て」ではなくても国際情勢などで大幅に観光客数が減少するかもしれません。街の魅力が多方面に及ぶのは間違いがありませんが、大阪で感じたのは言葉が過ぎるかもしれませんが、食も含めた雑多な街の魅力を表面的に薄く、しかも手早く消費しているのではないかという思いでした。エネルギーでなくても、観光のスピードをゆったりしたものに変えても、そこにどうしても足が向いてしまうような街に、そしてその人々に心を奪われるような本物の魅力を持つ神戸でありたいと願っています。



美しい街 共に歩む

ビルメンテナンスつかめ管財株式会社 078-371-3589

